

奄美大島・徳之島 公共事業環境配慮指針 チェックシート

記 入 日	年 月 日
記入者名（事業者名）	
事 業 名	
事業実施箇所（地区）	
添 付 書 類 （事業概要、設計図書、環境調査結果、アドバイザー意見概要等）	
担当者名・連絡先	

※アドバイザー等の助言を受けた場合はその内容を示した書類を添付すること

環境影響要因	環境配慮の内容	環境配慮要素											チェック結果	環境配慮の実施概要 (発注者記入)	審査結果 (審査者記入)		
		基本項目	希少・固有動物種の生息地	ロードキルのおそれがある動物	夜行性動物	繁殖期に配慮が必要な動物	水生動物	ウミガメ産卵地	希少・固有植物の生育地	重要な地形・地質の分布域	眺望される区域	主要な眺望点から				歴史・文化的資源の分布地	エコツアーのフィールド
1.存在による影響																	
1-1 地形の形状変更	①地形の改変範囲ができる限り小さくなるよう留意して事業計画を検討する。	●															
	②地形の改変工事による影響ができる限り小さくなるような事業計画とする。	●															
	③事業の実施前後で、表層水流が極力変化しないよう留意して事業計画・工事工法を検討する。					●		●									
	④事業の実施前後で、土壌の乾燥化や日照条件、風況の変化が極力生じないよう留意して事業計画・工事工法を検討する。							●									
1-2 地帯の状態変化	①地帯の改変範囲ができる限り小さくなるよう配慮して事業計画・工事工法を検討する。	●															
	②希少動物の生息地では、事業の実施前後で地帯の状況が極力変化しないよう留意して事業計画・工事工法を検討する。特に、緑化を行う際には、事業地の本来の植生構造に出来る限り近い形になるよう留意する。		●														
	③希少植物の生育地では、事業の実施前後で地帯の状況が極力変化しないよう留意して事業計画・工事工法を検討する。							●									
	④事業後に赤土流出が発生しやすい地帯の状況となることを極力避ける、もしくは別途、赤土流出対策を講じる。	●															
	⑤舗装、擁壁や護岸工の設置等により貴重な地質資源が極力覆われないよう留意して事業計画・工事工法を検討する。								●								
	⑥地帯の状態ができる限り周囲の景観と調和するように配慮する。									●	●	●					
	⑦舗装、擁壁や護岸工の設置等によりカミチや聖地等の文化的資源が極力失われないよう留意して事業計画・工事工法を検討する。										●						
	⑧地帯の状態の変化により、移入種が侵入しやすくなることが考えられるため、移入種の除去等の対策を検討する。	●															

環境影響要因	環境配慮の内容	環境配慮要素											チェック結果	環境配慮の実施概要 (発注者記入)	審査結果 (審査者記入)		
		基本項目	希少・固有動物種の生息地	ロードキルのおそれがある動物	夜行性動物	繁殖期に配慮が必要な動物	水生動物	ウミガメ産卵地	希少・固有植物の生育地	重要な地形・地質の分布域	眺望される区域	主要な眺望点から				歴史・文化的資源の分布地	エコツアーのフィールド
1-3 工作物の出現	①希少動物の移動を阻害しないよう、移動路を確保する(アニマルパスウェイ、魚道の設置等)。		●														
	②動物が側溝に転落しない構造を採用する、もしくは転落しても脱出できる構造とする。			●				●									
	③工作物周辺の表層水流が事業実施前後で極力変化しないよう、横断パイプ等を設置する。						●		●								
	④工作物の出現により、希少植物の生育地の日照条件の変化が極力生じないような構造とする。								●								
	⑤できる限り周囲の景観と調和する構造、色彩とする。	●															
	⑥自然とのふれあい活動を妨げない構造とする。													●			
1-4 路面排水の発生	①路面排水に伴う赤土流出の防止対策を講じる。	●															
	②希少な水生動物が生息する水系に路面排水が過剰に流入し、極力、生息環境を改変しないよう留意して排水経路を検討する。						●										
	③希少植物、価値の高い植生の生育地に路面排水が流入し、生育環境を改変しないよう留意して排水経路を検討する。								●								
1-5 自動車の走行	①道路を横断する可能性がある希少動物の生息区域周辺では、ロードキルが発生しないよう、防護柵の設置、動物の移動経路の確保等の対策を講じる。			●													
	②ロードキルの発生を特に防止する必要がある区間は、走行速度を抑制する対策を検討する。			●													
	③自然とのふれあいの場に騒音が届かないよう、構造上の配慮を行う。												●				
1-6 周辺域への入込発生	①道路周辺の希少動植物の生息・生育地や価値の高い植生の生育区域へ人が立ち入らないよう、柵の設置等の対策を検討する。		●								●						
1-7 夜間照明の使用	①照明が必要な区域を十分に吟味し、極力必要な区域のみを照明する(ただし、安全性が最優先)。	●															
	②ウミガメの産卵地周辺では、照明は必要最低限とし、極力、ウミガメの産卵に影響しないよう留意する。							●									
	③ウミガメの繁殖期には、産卵地の海岸付近で夜間照明を行わない。								●								
1-8 エネルギーの利用	①表示灯等の電源に、自然エネルギーの活用を検討する。	●															

環境影響要因	環境配慮の内容	環境配慮要素										チェック結果	環境配慮の実施概要 (発注者記入)	環境配慮の実施結果 (発注者記入)		
		基本項目	希少・固有動物種の生息地	ロードキルの可能性がある動物	夜行性動物	繁殖期に配慮が必要な動物	水生動物	ウミガメ産卵地	希少・固有植物の生育地	重要な地形・地質の分布域	眺望される区域				主要な眺望点から歴史・文化的資源の分布地	エコツアーのフィールド
2. 工事による影響																
2-1 車両の通行・駐車(通勤、工事資材・機材の搬出入等)	①可能な限り繁殖期の通行を控える(繁殖期を考慮して工事実施時期を設定する)。					●					●					
	②ロードキル防止のための速度制限の実施を検討する。			●							●					
	③ロードキルが発生しやすい夜間の通行制限を検討する(速度制限含む)。			●							●					
	④希少植物の踏みつけや損傷を極力、回避できるよう留意して通行場所、駐車場所を設定する。											●				
2-2 島外からの資材(植物、苗、土壌を含む)の搬入	①可能な限り資材を点検し、外来生物の侵入を防ぐ。	●														
2-3 工事機械の稼働	①繁殖期における使用を控える(繁殖期を考慮して工事実施時期を設定する)。					●					●					
	②希少動物の生息地をやむを得ず変更する場合、工事中の動物の避難路、休息場所、隠れ家を確保する。		●													
	③可能な限り騒音を低減する。		●													
	④歴史・文化的資源や地域で守られてきた場所を損傷しないよう留意する。												●			
	⑤工事区域外の植物を損傷しないよう留意して工事機械の稼働範囲を設定する。											●				
2-4 工事資材の集積	①希少植物や価値の高い植生が存在しない場所を資材置き場とする。										●					
	②歴史・文化資源や地域で守られてきた場所等を損傷しないよう留意して資材置き場を設定する。												●			
2-5 工事資材(植物、苗、土壌を含む)の利用	①可能な限り、環境への負荷が少ない資材を採用する。	●														
	②資材として外来植物を使用する場合は、在来種と交雑せず、安全性が確かめられた種を使用する。	●														
2-6 地形の改変作業(切土、盛土、発破、掘削)	①改変地に希少植物が生育している場合は該当植物の移植を行う。										●					
	②希少水生動物が生息する池沼等が消失する場合は該当動物の移植を行う(両生類等)。						●									
	③残土等について他の事業で利用できないか検討する。	●														
	④建設廃棄物、伐採木等を可能な限り再利用する。	●														
	⑤工事実施時や法面、残土置き場からの赤土流出の防止対策を実施する。	●														
2-7 コンクリートの打設	①濁水の発生を抑制し、近隣の水系(河川等)を通じて他地域の生態系に影響しないよう留意する。	●														

環境影響要因	環境配慮の内容	環境配慮要素											チェック結果	環境配慮の実施概要 (発注者記入)	環境配慮の実施結果 (発注者記入)		
		基本項目	希少・固有動物種の生息地	ロードキルのおそれがある動物	夜行性動物	繁殖期に配慮が必要な動物	水生動物	ウミガメ産卵地	希少・固有植物の生育地	重要な地形・地質の分布域	眺望される区域	主要な眺望点から歴史・文化的資源の分布地				エコツアーのフィールド	
2-8 夜間照明の使用	①照明が必要な区域を十分に吟味し、極力必要な区域のみを照明する(作業の安全性が最優先)。	●															
	②照明による野生動物の影響を軽減する(遮光シートの使用等)。		●														
	③希少な夜行性動物の生息地の近くでは夜間照明の使用をできる限り控える。				●												
	④ウミガメの繁殖時期には、海岸地域での夜間照明を行わない(繁殖期を考慮して工事実施時期を設定する)。						●										
2-9 作業員の立入	①希少動植物の生息・生育に影響するおそれがあるため、極力、工事区域外には立ち入らない。		●								●						
2-10 工事排水	①工事排水の排出先は、極力、希少動植物の生息・生育地を避ける。		●								●						
	②濁水が近隣の水系及び、河川等を通じて他地域の生態系に影響しないよう留意する。	●															
2-11 仮施設の建築	①希少動植物の生息・生育区域を極力避けて仮施設を建設する。		●								●						
	②仮施設の建築により地域で守られてきた場所(聖地)や歴史・文化的資源を損傷しないよう留意する。											●					
	③周囲の景観に配慮した施設を配置する(ただし、工事の安全確保が最優先)。										●	●	●				
2-12 工事ヤードの設置	①希少動植物の生息・生育区域を極力避けて工事ヤードを建設する。		●								●						
	②工事ヤードの建築により地域で守られてきた場所(聖地)や歴史・文化的資源を損傷しないよう留意する。											●					
2-13 薬剤の使用	①薬剤使用の必要性を十分に吟味する。	●															
	②希少な動植物に配慮した薬剤を使用する。		●								●						
3.維持管理による影響																	
3-1 除草・除木	①管理に伴う除草・除木に際しては、希少植物の存在に留意し、これらの伐採・除去を回避する。										●						
	②除草・除木作業に伴い、可能な限り、既に侵入している外来植物を除去する。	●															
	③伐採木の有効活用を検討する。	●															